

様式5

事業計画書

平成 23 年 9 月 30 日

施設名	新潟市ほたるの里交流館		
団体名	株式会社 福井開発		
団体所在地	新潟県新潟市西蒲区福井 4067 番地		
代表者名	石田 三夫	設立年月日	H4 年 10 月 1 日
電話番号	0256-72-4126		
FAX番号	0256-72-1126		
Eメール	office@jonnobi.com		

コンプライアンス・個人情報保護の関係

関係法令の遵守や守秘義務の徹底、個人情報保護のための適切な方策を示してください。

施設従業員に対する教育、訓練、監督を実施し、交流館の管理に関する協定書はもとより各種法令は遵守するとともに守秘義務を徹底します。個人情報についても従業員に個人情報保護の基本を教育し新潟市個人情報保護条例を準用し適正な対応をし、関係書類及びパソコンデータの管理を徹底します。

環境保護関係、社会貢献活動等

環境保護、障害者雇用、地域活動への参加等の社会貢献活動の実績や今後の方策を示してください。

環境保護関係

ゴミは分別を徹底し、リサイクルできるペットボトル、缶、ダンボール及び紙など従業員はもちろん、お客様からも協力を得ながら資源ごみとして提供しております。

社会貢献活動

- ①本年 7 月に行われました西蒲区役所産業観光課より巻観光協会に協力依頼があった「西蒲区海岸一斉清掃」にボランティアとして参加しました。今後、当社人材育成の場という意味も含め積極的にボランティアの参加を実施します。
- ②当社及びお客様からご協力いただき(財)新潟国際交流協会や災害が起きた場合の募金活動を実施。本年の東日本大震災にも積極的に募金活動を実施し、巻商工会を通して関係機関に拠出しました。

人材育成関係

職員の研修体制や内容など人材育成関係を示してください。

施設利用者のサービス向上、従業員の資質向上を図るとともにサービス体制の充実、施設の安全・衛生管理を図れるように下記の通り研修を実施しております。

- ①毎週の朝礼で従業員全員による販売・接遇の10大用語の挨拶練習
- ②他店のサービス業種訪問による接遇視察研修
- ③講師を招いて実技でのサービス接客研修。
- ④年2回の消防訓練を実施するとともに、災害時における防災危機管理マニュアルを基に、お客様や従業員の人命の安全、二次災害の防止に務める。

指定管理者としての運営実績

過去の指定管理者としての運営実績・内容等を示してください。

- ・旧巻町から「ほたるの里公園指定管理者」に指定。新潟市と合併後も継続。
内容 公園内にあるじよんのび館、角田山自然館及び多目的広場の管理・運営。
契約期間 平成17年7月1日から平成27年3月31日まで
現在6年3ヶ月
- ・新潟市から「新潟市ほたるの里交流館指定管理者」に指定
内容 ほたるの里内平成18年4月に完成したほたるの里交流館の管理・運営。隣接するじよんのび館と一体的、効率的に管理し、市民サービス及び地元産木材の素晴らしさのアピールに務める。平成18年度～平成21年度に続き2期目。
契約期間 平成21年4月1日から平成24年3月31日まで
現在契約最終年度

施設の管理方法

- ・施設を運営する組織図、必要人材の配置と機能、職、業務分担等を示してください。
- ・施設を管理・運営を行っていく上での基本方針を示して下さい。



基本方針

- ① 施設管理に当たっては、施設利用者が平等かつ公平なる利用ができるよう配慮、工夫に心掛ける。
- ② 施設管理運営に当たっては、施設の効用を最大限に発揮できるように努めるとともに、管理経費の節減を図れるように最大限努力する。
- ③ 施設利用者に対しては、常に安全管理、衛生管理に配慮するとともに、緊急時における体制作りを徹底する

稼働率アップへの取り組み

市民利用を促進させるための取組、施設の機能を十分に活用した様々な事業の展開、利用者ニーズの把握と反映への考え方を示してください。

施設の知名度アップにまだまだ不十分な面があり、まずそこに努力が必要と感じております。交流館独自のホームページを立ち上げ、研修室を利用した会議や研修会の誘致を積極的に行う。じょんのび館とのより一層の連携を密にして宴会前の会議利用がある場合での誘致、行政等にもパンフレット等での施設紹介にご協力いただき研修会や会議などでの誘致に取り組み少しでも知名度アップにつなげていきたいと考えております。

自主事業にもより一層努力したいと考えております。今現在年3~4回実施していますが、どの回もある程度の人数が集まるようになりました。施設利用で大きなウェイトをしめる程に回数や内容をより充実させ施設の知名度を上げ、稼働率のアップに取り組みます。

要望・苦情に対する対応

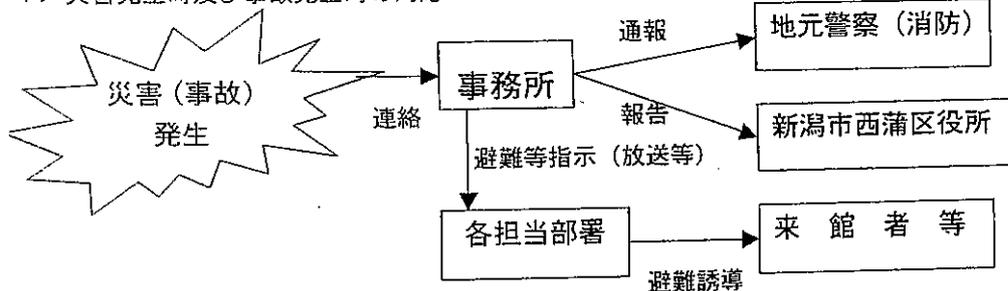
市民や入館者等からの要望や苦情に対する対応方法を示してください。

要望については、入館者からの声やアンケート調査などから利用者のニーズを把握し、管理運営に最大限反映できるシステムを確立させて対応する。苦情については、誠意を持って真摯に対応することを最優先とし、従業員に周知徹底するとともに教育訓練計画の実施や苦情処理マニュアルの整備も行う。

災害発生時の対応、事故防止や発生時の対応

災害発生時の対応、事故防止の方策、事故発生時の対応方法を示してください。

1. 災害発生時及び事故発生時の対応



2. 事故防止の方策

- (1) 施設管理・運営に当たっては、地元警察(消防等)はもとより、警備会社、新潟市との連携を密にして事故の未然防止に努める
- (2) 年2回の消防避難訓練を実施するほか、各種会議を開催する中で、事故防止に関する意識の啓発に努める

管理経費削減の取組み

コスト削減を図っていく上での基本方針を具体的に示してください。

管理運営を行う上で当然コスト削減を図らなくてはなりません。過去3年間の管理経費を見ると、20、21年度では約250万円で、23年度については自主事業に力を入れたため260万円強となりました。大きく分けて人件費と管理費について下記の通り実施したいと考えております。

① 人件費

現在の施設管理人を1名責任者として雇って、清掃から全て担当をお願いしております。これ以上の人件費としての削減は厳しい面もあるかもしれませんが、今後、もっと効率の良い時間での配置を考え、更なる人件費の削減につとめたいと考えております。

② 管理費

管理費については、過去3年で確実に削減できておりますのが水道光熱費です。震災の影響もあり館内掲示で節電を呼びかけ実行しております。利用がない場合は全てスイッチをオフにして、今まで以上にこまめのチェックをして削減を図ります。

効率的な利用計画

・平成24年度の事業計画と、集客対策は22年度実績を踏まえ、指定期間である5年間の各

年度の集客目標と集客対策（自主事業等）を示してください。

（22年度 施設見学者：3,350人 施設利用者：665人）

平成24年度事業計画

24年度事業方針

6年間の管理運営実績を遺憾無く発揮し、まずは当施設の建設目的である新潟産木材の素晴らしさや各種技法に触れていただき、木材の良さを知っていただけるよう広くアピールすることに努力します。また、下記の集客対策を実施することで集客目標を達成出来るように努力します。

集客対策

①自主事業

じょんのび館の入浴と食事とのタイアップで木材関連や季節にあった内容で自主事業を実施します。1回につき20名程の利用があり、回数や内容をよく検討した上で行います。

②会議利用の誘致

施設の使い良さを知っていただく意味で積極的なアピールで誘致を実施します。

集客目標

24年度	施設見学者：3,000人	施設利用者：800人
25年度	施設見学者：3,000人	施設利用者：900人
26年度	施設見学者：3,000人	施設利用者：1,000人
27年度	施設見学者：3,000人	施設利用者：1,000人
28年度	施設見学者：3,000人	施設利用者：1,000人

施設のPR

施設PRや林業・木材産業振興への取組みについて方策を示して下さい。

施設PR、林業・木材産業振興への取組み

今まで独自の交流館のホームページを立ち上げていませんでした。これを立ち上げることにより、じよんのび館のホームページにリンクさせるなどして、まず交流館のホームページを多くの方から見ていただけるような環境を作りたいと考えております。また、林業関連のホームページとも繋がらせてもらい、現代のインターネット社会を利用してのPRを進めます。

地域森林の振興と木材の普及等に力になれるよう努力します。森林ボランティア団体の活動拠点として、定例会合及び体験活動開催等の支援をしていき、また、団体のレベルアップにつながる研修会等を誘致し支援します。施設内には関連のパンフレットやチラシなどを用意しておき、利用者から県内の林業関連の情報の発信地としての役割を担うような施設と理解していただくよう努める。

小学校等の学校教育の一貫としての活動を行います。近隣の学校での校外学習で当施設の見学を誘致し、林業での地元産業を勉強していただけるようにする。地元巻南小学校 2年生が見学に来られています。

管理事業の取組み

地域への働きかけ、近隣の他施設との連携等の方策を示してください。

(じよんのび館、角田山自然館など)

じよんのび館等の連携

じよんのび館は西蒲区巻地区の観光の拠点としての役割を果たしております。年間15万人程の入館者があります。そのじよんのび館とは廊下でつながっております。交流館の利用者を増加させるためには、いかにじよんのび館の入館者からも利用していただけるかが一番重要だと考えております。見学者や自主事業での対応もそうですが、今後一番力を入れたいのが、じよんのび館で宴会をされる前に会議を開かれる利用者の誘致です。宴会プランに会議を組み合わせて売り出すことにより、交流館を含めた上でじよんのび館は会議や研修でも利用できる施設ということをまずは地域の人たちから知っていただき、新潟市全体へ普及できれば成果を上げることができると考えております。

角田山自然館は角田山の自然などを紹介する施設であり新潟市内の小中学校から校外学習で見学に来られます。見学に来られた生徒を角田山からの木材で建設された交流館とタイアップできればと考えております。

地元福井地区はもとより地域住民の憩いの場として気軽に利用できるよう提供して、地域に愛される施設になれるよう努力します。